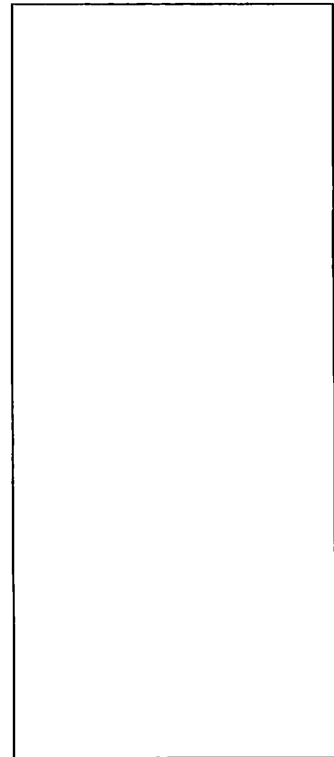


じゅうににん  
十二人

じゅうに  
十二

マルコによる福音書3章に、イエスさまが十二人を選んで使徒と名づけたことが伝えられています。そもそも十二という数は、イスラエル民族にとって他の数よりも大切にしてきたものです。

ところで、ふだんの生活のなかで、十二という数はどこで使われていますか。思いついたことをつぎの空白に書いて下さい。



イエスさまが十二人を選んだことを伝える記事は、それなりの意味が含まれています。イスラエルが十二部族から成り立っていたように、真のイスラエルの継承者であるキリスト教も、十二人の使徒によって建てられる必要がありました。

それを裏付けるものとして、十二人の使徒の名前で、

ペトロ、ヤコブ、ヨハネの三人をのぞくと、ほとんど聖書の中で重要な位置を占めていません。おまけに、使徒言行録1章では、イエスを裏切ったユダにかわって、わざわざマテイアを選んでいるぐらいです。

このように、使徒のそれぞれが大切なのではなく、十二という数が大切なことがはっきりと分かります。

パウロは、自らを使徒の中に数え上げて、十二人の弟子と使徒とを区別して使っています。ここから判断すると、キリスト教の初期の時代から、十二人という呼び名が使われていたことは確かです。

しかし、十二人がそれぞれのどのような役割を果たしたかは不明です。聖書では十二人よりも、使徒の働きに関心が向けられています。使徒の働きを通して、福音が世界に広まっていくことに興味が置かれています。

